

岩手県連の執行委員に聞きました 私のこだわり 特別版

県連会計監査



ゲンジホタルが生息している
釜石市の小川地域にある小川川

私は釜石市内で建設業をしています。中学卒業後、市内の工務店に弟子入り。その後自立して、建設業の仕事に従事し現在に至っています。地元地域では、消防団部長・町内会会長として微力ながら活動しています。「こだわり」といつと今は、地域

ホタルを守る活動

会計監査 佐々木 正雪(釜石)

で飛び交うホタルを守る活動に力を入れています。私の住む小川地域は、ゲンジホタルの生息地として知られており、震災前には何百と生息しているホタルが飛んでいて、心にとても安らぎを感じていました。でも、震災後は減少している様に思えます。ホタルが生息す

る環境を作る為、工サとなるカワナラの放流などの活動をしてきました。これからも続けて行きたいです。現在、ホタルの里祭りを開催しながら、地域の宝であるホタルが身近な場所で見られる「ホタルの里」として発信しています。今年度も釜石市が行うホタルの観察会が開催され、約80人が参加しました。



私が木工ろくろで作成した作品

私は2度目の投稿になります。冬の寒い時期は釣ります。前回に引き続き、私は休み、3月下旬頃からタコ釣りが始まり6月位までやります。釣り方としては防波堤の片側を船を擦りながら、歩く速さよりもゆっくり進めます。仕掛けは八戸の出川さん(私の釣りの師匠)の手作りのものを頂い

て使っています。市販の仕掛けでは大物だと壊れてしまいます。手作りの仕掛けなら20キロ以上のタコもあがります。私はまだ10キロまでしかあげたことはありません。7月頃から11月頃までヒラメが釣れます。秋の夜釣りはアナゴです。私のこだわりは、釣りの仕掛けはほとんどが手作りです。私がボートを購入して15年。それだけ歳をとった訳で、行き帰りの車の運転も疲れます。八戸通いも後何年出来るでしょうか。何かを一生懸命に

やっていないとボケそうになります。それでという訳ではありませんが、もう1つこだわりがあります。18年前に旧大野村で中古で譲り受けた「木工ろくろ」でつくる木製のお椀やお皿です。釣りを始める前に百点作りしましたが、見るとみなさん欲しがります。今手元には十数程

しか残っていません。私は大工なので木が好きです。きれいな木目模様を見出しながらろくろを回したいと思い、この先使える様に普段から材料になる丸太材や板材を集めています。割れない様に乾燥させなければなりません。冬場は器づくりに興味にしようと考えています。

何かを一生懸命に

会計監査 高橋 重也(八幡平)



今年上げた8キロのミズダコ

職人がすべき事 国に頼ってられない

私は岩手県連の定期大会において、賃金税金対策部の分科会で座長を務める機会がありました。そこで必ず議題になるのが「職人の賃金をどうやれば上げる事が出来るのか」です。それには公共工事の設計労務単価を上げてもらい、公契約条例の下請契約の80~90%の下限条項を設定してもらおう事です。そうすれば民間の賃金情勢にも良い影響を与え、全体の職人の賃金が上がります。また、国土交通省の「建設キャリアアップシステム」等の施策の話も出て来ています。しかし、これは相変わらず中央集権たる官からの政策です。以前は、現政府政権が民間の賃金アップをするよう日本経済団体連合会と共に声高に叫んでいました。さて、我々は職人あるいは請負人(商人)という曖昧な立場を取りながら、誰に対してどういう態度を取るべきなのでしょう。このままでは高齢化、人口減少社会へのスピードが高速になる中、インフラ整備への予算も急激に無くなり、仕事はどんどん無くなって来るでしょう。国に頼った産業で最後まで栄えた産業はありません。我々が何をしてもらうかではなく、我々自身がそれぞれの立場で、何が出来るかをしていかなければならないかを考えるべきではないでしょうか。江戸の職人社会では世界に誇れる集団であったはず。



会計監査の
小野寺 規久雄さん
(水 沢)